

■ 計画策定の背景

1. 本市を取り巻く社会状況

- 少子高齢化と人口減少
- 財政面、人員面の制約
- 自然環境問題
- 価値観、ライフスタイルの多様化
- 熊本地震からの復興

2. 本市の公園の状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（1,078箇所、712ha）
- 老朽化施設の増加と対応（遊具、トイレ、ベンチ等）
- 厳しい財政状況

3. 将来の都市像

- 上質な生活都市
 - 多核連携型の都市構造
 - 大規模地震等の災害に対するレジリエントなまちづくり
- ※レジリエント：変化に対処する能力（回復力、抵抗力など）

■ 課題 ※限られた予算の中で様々な課題に対応する必要がある

1. 環境保全

水前寺江津湖公園の豊かな自然環境、文化資源をいかに保全し、次の世代につなげていくか

2. 利活用（魅力と質の向上）

まちなかにあるオアシスとしてのポテンシャルを活かしきれていない（観光面）

3. 維持管理

いかに老朽化施設の更新等をしていくか（トイレ、照明灯、ベンチ等）



基本理念

**生物多様性の保全とともに、
江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、
人にとっても生きものにとっても、
上質な公園空間の創出を実現する**

※今後、施策事業を踏まえ、分かりやすいキャッチコピーを設定する

環境部会の基本方針

基本方針① 豊かな水環境の保全

- 長期的な地下水かん養対策
- 水質の保全・改善
- 流域のつながり（水循環）
- 地下水のP R

基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

- 自然環境の現状把握
- 自然環境の保全・再生
- 外来生物の駆除
- 自然と人との共存・共生・配慮のあり方

基本方針③ 歴史・文化の継承と活用

- 歴史的・文化的資源の保存と活用
- 連続性・一体性の創出
- 散策ルートの設定と活用

基本方針④ 感じ・憩い・学び・発信する場としくみの整備

- 情報の集積
- 魅力・価値の発信
- 環境教育、体験型プログラムの整備
- 担い手づくり、次世代への継承

アクティビティ・マネジメント部会の基本方針

基本方針① 「魅力」と「質」の向上

- 魅力の発掘
- 健康プログラムの展開
- 園内の回遊性向上
- 子ども等の遊び場整備
- 職場空間としての活用
- 施設の整備
- 動植物園との一体的な整備
- 情報の発信

基本方針② 適切な公園経営・資産運用

- 民間活力の導入
- マーケティングによるブランド化
- 防災・減災機能の強化

基本方針③ 運営手法と担い手づくり

- 人材育成、担い手づくり
- エリアマネジメントの導入
- 効果的な事業展開・事業検証